



これまでの「輝け！おばねっ子」は上のQRコードからご覧いただけます

～尾花沢の未来をひらくいのち輝く人間の育成～

※毎週月曜日発行予定です

間違いを正すために、怒らずに叱る…

大人として、子どもの間違いを正さなければならない場面があります。

よく「怒らずに、叱りなさい」と言われます。「怒る」→「感情」(感情の赴くままに感情を爆発させる状態)、「叱る」→「愛情」(相手のためを思って心に余裕のある状態)なのだそうです。

そうは分かっているものの、子供の言動にかっとなり感情で怒ってしまうことがずいぶんあったことを思い出します。今でも、恥ずかしくなります。

私は中学校教員ですので、部活動顧問として多くの生徒や保護者と苦楽を共にしてきました。若いときは「感情で怒ること」＝「部活動で一生懸命指導している顧問の姿」と勘違いしていた時期も正直ありました。しかし、経験を重ねていくうちに、「怒る」よりも常日頃の言葉掛けや心にしみる「叱る」指導の大切さを実感するようになりました。



■常日頃の言葉掛け

当時、口を酸っぱくして次のような言葉を生徒に投げかけていました。

- 「いろいろな方(【例】仲間、保護者・地域の方々、大会を運営しているの方々…)の支えがあって、自分のやりたいことに打ち込むことができている。周囲への感謝を忘れないこと」
- 「応援してもらえる人・チームになるために、心を込めて挨拶すること、心を込めて感謝の言葉を伝えること」
- 「肝心な時に普段の自分が出る。普段の生活を大切にすること(【例】時間を守る、きまりを守る、宿題を提出する、やるべきことは責任を持って期限までやり遂げるなど)」

■心にしみる「叱る」指導

心にしみる指導については、野球部顧問だった尊敬するA先生の指導について紹介します。

- 土曜日の部活動が終わり、帰宅する野球部員たち。部長・副部長を含む数名の部員が学校の目の前の交差点で信号を無視して横断している様子をB先生から咎められました。「いくら野球が強くて、社会のルールが守れなくて、どうする!」B先生は一喝して、A先生にその後の指導を任せ、去っていきました。

部員たちは、「厳しく叱られる」と覚悟を決めて正座しています。「普段の生活が肝心な場面に表れる」と厳しく指導しているA先生、しかも交通安全担当です。私は、当然厳しい叱責があるだろう、と思って見守っていました。

ところが、A先生から出た言葉は「俺は悔しい…。見ると一筋の涙が…。「部活動での頑張りを通して、君たちが素晴らしい人間であることを俺は知っている。だが、B先生をはじめ多くの方は、ルールを守らない人間と見るだろう。俺は、そのことが悔しい…。」A先生の涙は止まりませんでした。「自分たちを認めてくれていた先生を裏切ってしまった…」部員たちの目にも涙が光ったことは言うまでもありません。私も、その光景に涙が止まりませんでした。

その後、部員たちは、部活動はもちろん、生徒会のリーダーとして学校を引っぱり、立派に卒業していきました。

心にしみる「叱る」指導ができるようになるには、私にはまだまだ修行が必要なようです。



【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課
教育指導室長 工藤 雅史
TEL 23-3330